

# 神秘のバリ島へ： ニュピ前夜に見た「ムラスティ」海の浄化儀式

## 2026年レポート

2026年3月17日 現地レポート

バリ島を訪れたことがある人なら、あの独特の空気感を覚えているだろう。椰子の木が揺れる夕暮れ、どこからか漂う線香の香り、そして突然始まる太鼓の音。旅人を非日常へと引き込む島だが、3月のバリには、さらに特別な光景が待っている。

それが「ムラスティ (Melasti)」——バリ・ヒンドゥー教最大の浄化儀式だ。今年2026年は、3月15日から18日にかけて島全体で行われた。神聖な像を先頭に、白装束の人々が海へ向かって歩く光景は、まるで時間が止まったような感覚を覚えさせる。

この記事では、ムラスティとは何か、どんな儀式が行われるのか、そして旅行者として現地を訪れるにあたって知っておきたいことを、最新情報とともにまとめてお届けする。

## 📅 2026年の日程

まず押さえておきたいのが今年の日程だ。

イベント	日程
ムラスティ期間	2026年3月15日(日)～18日(水)
主要儀式の日	2026年3月16日(月)
ニュピ(沈黙の日)	2026年3月19日(木)

2026年は特別な年でもある。ニュピとイスラム教の断食明け大祭「イドゥル・フィトリ」が重なるという珍しい年で、インドネシア全土が3月16日～25日の大型連休に入る。バリ島には例年以上の観光客が押し寄せており、ホテルのハイシーズン料金や混雑には覚悟が必要だ。

## ムラスティとは何か

---

### バリ・ヒンドゥー教における「水の力」

ムラスティはバリ・ヒンドゥー教における最も重要な儀式のひとつで、ニュピ（沈黙の日）の数日前に執り行われる。各村が近くの浜辺、湖、または聖なる泉へ向かって行列を組む。

バリの信仰では、「水には負のエネルギーを洗い流し、人の魂と自然界を浄化する力がある」とされている。日々の生活で蓄積された穢れを水に流し、清らかな状態でニュピを迎えるための、いわば「魂の大掃除」だ。

### ニュピとの深い関係

ニュピとは、バリ・ヒンドゥー暦の新年（サカ暦元旦）にあたる「沈黙の日」。この日は島全体が文字通り静まり返り、外出・労働・火の使用・娯楽がすべて禁じられる。観光客も例外ではなく、ホテルの敷地内から出ることができない。

そのニュピを前にして、人々は心身ともに清まっておく必要がある。ムラスティはその準備の場であり、村が一体となって神々に感謝と祈りを捧げる日でもある。

## 儀式の流れ——行列から聖水まで

---

### ① 出発：ガムランとクルクルの音とともに

夜明け前から、村の広場や寺院にはざわめきが生まれる。女性たちは色鮮やかなケバヤ（伝統的な上着）をまとい、頭上に供物を乗せて集まってくる。男性たちは白いウデン（頭巾）を巻き、整列する。

出発の合図は、クルクル（バリの木製太鼓）の音だ。続いてガムラン（伝統打楽器）が鳴り響き、行列が動き出す。その先頭に運ばれるのが「プラティマ」——村の寺院に安置された神聖な像やクリス（短剣）だ。

### ② 到着：海に向けて並ぶ神々

ビーチに到着すると、プラティマたちは海に向けて並べられる。波の音が静かに響く中、高僧（ペマンクまたはスリンギ）が厳かに立ち、祈祷が始まる。

供物は「バンテン」と呼ばれ、花・米・線香から丁寧に作られたもの。煙が空へと立ち上るなか、神々への感謝と来年の平和が祈られる。

### ③ 浄化：聖水が像を清める

儀式のクライマックスは、聖水による浄化だ。高僧が祈りの言葉とともに像に聖水を注ぐと、その水は特別な壺に汲み取られる。この聖水は村の寺院へと持ち帰られ、一年を通じて使われる。

浄化が完了した後、行列は静かに来た道に戻る。その後ろ姿には、なんともいえない清々しさがある。

## 観光客が知っておくべきマナー

---

ムラスティは観光イベントではなく、バリの人々にとって真剣な宗教儀式だ。見学する際には、以下のマナーを必ず守ってほしい。

### 服装について

- ☞ 女性は露出の多い服装を避ける。腰にバリ伝統の布「カイン・カメン」を巻くことが推奨される。
- ☞ 男性はサルンを腰に巻き、ウデン（頭巾）を着用することが望ましい。
- ☞ 寺院や儀式の場に入る際は、必ずサルンを着用する（貸し出しがある場所もある）。

### 撮影・行動について

- ☞ 写真を撮る前に、必ず近くの参加者に許可を求めること。
- ☞ 儀式の最中に大声を出したり、人の前を横切ったりしない。
- ☞ 供物やプラティマに触れることは厳禁。
- ☞ 行列の進路を塞がない。特に車やバイクでの移動は注意が必要。

## 旅行者への注意事項

---

### 交通規制に注意

儀式の行列には 200 人以上が参加することも多く、沿道の道路は通行止めや迂回が発生する。バドゥン県警は交通警官と地域の警備員（ペチャラン）を配置して安全を確保しているが、移動には余裕を持ったスケジュールが不可欠だ。

### 宿泊・料金の注意

前述の通り、2026 年は大型連休と重なるため、バリ島は観光客で溢れている。人気エリア（クタ、ウブド、セミニャックなど）のホテルはハイシーズン料金を設定しており、事前予約なしでは部屋が取れないケースも出ている。

ニュピ当日（3月19日）は、空港も閉鎖される。前後の旅程には特に注意が必要だ。

---

## おわりに：静寂の前に祭りあり

---

ムラスティを見ていると、バリという島が単なる観光地ではなく、今もなお生きた信仰の場であることを実感する。200人の白装束の行列が、朝の光の中を海へと向かっていく光景は、言葉では言い表せない感動がある。

翌日のニュピを境に、島は一日中静まり返る。その沈黙の重さを、ムラスティの喧騒が引き立てているような気がしてならない。

もしバリを訪れる機会があるなら、3月はぜひ候補に入れてほしい。旅の計画には混雑を織り込みつつも、この稀有な体験をぜひ目に焼き付けてきてほしい。

---

※ 本記事はウェブ上の公開情報をもとに2026年3月17日時点で作成しました。日程・規制内容は現地当局の発表により変更になる場合があります。